

昭和58年度日本気象学会総会議事録

日時 昭和58年5月19日(木) 15.00~18.00

場所 筑波研究学園都市, 研究交流センター国際会議場

出席者数 出席者 159人
委任状 876人
計 1,035人

1. 開会

荒井理事から, 総会の成立には定款第38条により, 通常会員現在数3,711人の5分の1, すなわち742人以上の出席が必要であり, 委任状によらない通常会員の25分の1の148人以上出席することによって成立することとなる。委任状が876人あり, この会場に159人出席され, 計1,035人の出席であるので, 総会は成立すると開会が宣言された。

2. 議長選出

荒井理事から, 議長選出は定款第35条で, 出席会員の互選により決めることになっているが, 慣例によって, 大会委員長の森安茂雄会員を議長に推したいと語ったところ, 満場一致の承認があって, 森安茂雄会員が議長に決まった。

3. 議長あいさつ

森安議長から, ご指名をいただき, 議長を務めさせていただくことになった。会員皆様のご協力によって総会が円滑に開くことができるよう, よろしく願いたい旨のあいさつがあった。

4. 理事長あいさつ

岸保理事長から, 100周年記念事業の実行にあたって, 会員のご協力をいただき, 無事盛大に行うことができたことに対し, お礼の謝辞があって, 概要, 次のようなあいさつがあった。

○学会の活動が拡充され, 「気象集誌」の場合には, 年間900ページの発行となって, イギリスの学会機関誌の年間1,000ページにまで近づく時代となった。今後, 質を高くしていくよう図る。「気象集誌」は, 特殊性をもたせ, 「天気」は多くの方々に, より親しみ易いものにしていくよう考えている。

○この春に, 当学会理事長あてに, 中国気象学会葉篤正会長から, 学会として交流をしたいとの正式申し入れがあった。交流をはじめるにあたり, 今後, 財政面をも含めて対応を考え, 実行していく。

昨年熱帯気象学に関する地域科学会議では, 多

くの研究・学者が参加されたが, 東南アジアとの交流も大切であると考えている。この問題について, 理事会で検討していく所存である。

○日本学術会議の改革の問題であるが, 気象学会員の中に関心をもっている人が多いが, さらに, 関心をもってもらいたい。学会として, 今後, 討論していく問題であろうかと考えている。このことは理事長個人の考えである。

5. 日本気象学会賞の授与

松本理事から, 松野理事に代わって, 規約によると一人ということであるが, 研究業績の優秀な研究があったので, 昨年と同様2名について選考したとし, その理由の紹介があった。

岸保理事長から, 次の会員に, 賞状, 賞牌, 賞金が授与された。

○故 会田 勝会員(会田春菜夫人代理出席)

不均質環境の放射特性の研究

○金光正郎会員

熱帯域における東西循環・準定常超波の実態解明と熱帯域数値予報の試みの研究

6. 藤原賞の授与

松本理事から, 学会賞同様多くの推せんがあった。その中から51名を選考したとし, その理由の紹介があった。

岸保理事長から, 次の会員の受賞代理者(廣田会員)に, 賞状, 賞牌, 賞金が渡された。

○都田菊郎会員

延長予報モデルの開発に尽くした貢献

7. 山本賞の授与

杉村理事から, 推せんされた中から1名を選考したとし, その理由の紹介があった。

岸安理事長から, 次の会員に, 賞状, 賞牌, 賞金が授与された。

○住 明正会員

WMONEX 広領域における1978~79年冬季大循環の大規模な特徴

議長から, 授賞記念講演は後刻に行い, 議題の審議にはいらさせていただくとの発言があって, 議事の進行が告げられた。

8. 昭和57年度事業経過報告

荒井理事から, その概要が次のとおり説明された。

(1) 昨年度は当学会の100周年にあたり、その記念事業を実施した。

ア. 記念式典は、5月25日13時30分から、日本教育会館で、文部大臣(代理)、運輸大臣、日本学術会議会長(代理)、気象庁長官、アメリカ気象学会前会長 Robert G. Fleagle 氏、中国科学院副院長 葉篤正氏、学会功労者、その他会員多数の参列のもとに挙行された。

(ア) 学会功労者として、和達清夫、畠山久尚、吉武素二の3会員を表彰した。

(イ) 学会事務功労者として、中島 茂、柴田茂登雄、八塚 芳の各氏へ感謝状を贈呈した。

(ウ) 次の記念講演を催した。

○畠山久尚会員「私と気象学会」について

○NHK 野口篤太郎氏「シルクロードにおける自然」について

イ. 学会のシンボルマークの発表及び記念のシンボルマークのネクタイピンの発売をした。

ウ. 次のように、熱帯気象学に関する地域科学会議を開催した。

WMO(世界気象機関)、気象庁及びアメリカ気象学会の後援のもとに、当学会が主催で、昭和57年10月18日から22日まで、筑波研究学園都市、研究交流センター及び気象研究所で行った。

参加者は、内外合わせて115名にのぼり、また、多くのオブザーバーの参加もあった。

今回の会議には、アジア諸国から58名の参加があったことは特筆に値する。

エ. この100周年記念事業の予算は、数年にわたって積み立てた経費によるものである。

(2) 春季大会は、気象大学の担当によって、昭和57年5月26日から28日まで、日本教育会館で行った。

秋季大会は、北海道支部が担当し、昭和57年10月13日から15日まで、札幌市教育文化会館で行った。

また、夏季大学教室は、例年どおり、東京と大阪で開催した。

その他、月例会として、大気数値シミュレーション、長期予報、大気大循環、山の気象シンポジウムなどのテーマで行い、多数の参加があった。

(3) 気象知識の普及・教育の活動では、夏期大学を開催し、「科学朝日」の雑誌に、気象学最前線について執筆、連載した。

(4) 各地方支部における活動では、それぞれ例年以上

に、調査研究会、防災気象講演会などと100周年記念の一環としての講演会がそれぞれ開催された。

以上のような経過報告があった。

議長から、ただいまの説明に対する質問等は、次の3つの議案の説明が終わった時点で、一括行いたいとの発言があり、異議なく承認されたので、次の議案の説明が求められた。

9. 昭和57年度会計決算報告

嶋村理事から、別紙資料に基づいて、その概要が次のとおり説明された。

(1) 収入の部

ア. 会費収入、事業収入の増は、それぞれ主に例年4～5月に入る会費、「気象研究ノート」代金を特に請求して、57年度内に領収したためである。

イ. 雑収入の増は、主として「気象集誌」、投稿料、別刷代、「天気」広告料などの増及び100周年記念ネクタイピン売上げによる増である。

ウ. 積立預金取崩収入は、100周年記念事業のための積み立てた1,050万円のうち、前年度に処理済の「気象集誌」特別号分435万円を除いた残り615万円の取り崩し分である。

(2) 支出の部

ア. 管理費では、印刷製本費の支出増は、特別仕様の封筒の印刷を一括注文したためであり、雑費の増はネクタイピン購入のためである。

イ. 事業費の通信運搬費と編集費の支出残は、「気象研究ノート」の発行が2冊にとどまったためであり、印刷製本費の支出増は、「天気」及び「気象集誌」の増頁のためである。

10. 100周年記念事業決算報告

嶋村理事から、100周年記念事業収支計算書(別紙資料参照)に基づいて、その概要が次のとおり説明された。

ア. 印刷製本費のうち、「気象集誌」(第60巻第1号記念号)の分は、56年度に処理済。

イ. 印刷製本費のうち、「天気」の支出増は、100周年記念事業を充実させるための増頁したことによる。この支出増は、「気象集誌」投稿料、別刷代の増や例年4～5月に入金する会費などを特別に請求して、57年度内に領収した収入などを充当した。さらに、繰越金もこの支出増のため前年度の320万円から120万円に減少した。

以上のような収支決算の概要の報告があった。

11. 昭和57年度日本気象学会監査報告

荒川監事から、昭和58年5月2日、関根監事とともに、会計監査を実施したことが、別紙資料に基づいて報告された。

議長から、以上の4つの議案について一括質問等が求められた。

A会員から、57年度の事業経過報告に関連し、日本学術会議の改革の問題について、学会がどのように対応されたかなどの答弁を求める質問があった。

議長から、本質問は、この4つの議案の討論採決に直接かかわることでないことから、予定議案の終了後に諮ることとしたい旨発言され、質問者の了承を得られた。

引き続き、質問を求められたが、質問がないため、上記の案について、賛成、反対、白紙の順に、挙手が求められた結果、4議案一括について、賛成159、反対0、白紙0で、承認可決された旨告げられた。

12. 昭和58年度事業計画(案)及び予算(案)

(1) 荒井理事から、本年度の事業計画(案)についての骨子が、次のとおり説明された。

ア. 機関誌の「天気」は年間12冊804頁、「気象集誌」は年間6冊864頁で、それぞれ発行し、内容の充実を図る。財政上「天気」は例年より減頁となっているが、予算の経過をみて増頁に努める。

イ. 秋季大会は、東北支部が担当し、58年10月19日(水)から21日(金)まで、仙台市仙台第3合同庁舎内で行う。

ウ. 夏季大学教室(新しい気象学)は、本年も8月2日(火)から5日(金)まで、気象庁講堂で、小・中・高校の地学科担当教師及び気象学愛好家を対象に、最近の気象学の発達を反映した内容のテーマで行う。また、関西支部でも開講する。

エ. 本年度は、特に3つの問題、(ア)機関誌の拡充を中心とした学会活動の強化、(イ)事務局体制の整備、(ウ)財政確立のための検討について、委員会を設けて具体案を検討することとしている。会員には、これの問題について意見をあげて欲しいと要請された。

(2) 嶋村理事から、本年度の予算(案)について、別紙資料に基づいて、その概要が次のとおり説明された。

ア. 雑収入で、「気象集誌」の投稿料、別刷代の増を見積もった。

イ. 萩原事務局員が退職するため、退職給与引当金積立金を全額取り崩すこととした。

ウ. 管理費の支出では、財政がきびしいため、全国理事会の会議費、旅費交通費を削減した。

エ. 印刷製本費では、事業計画で述べたように、止むを得ず、「天気」を減頁することになった。

オ. 雑費、会議費、旅費交通費の減については、主に100周年事業関係がなくなったためである。

「最後に、財政の苦しい状況を訴えなければならぬ。「天気」の減頁や会議費の削減など切り詰めているが、それでも繰越金が減少し、59年にはマイナスになってしまう見通しであることや予備金が極度に少ないなど財政がきびしい。こうなった理由は、主に学会費を中心とした学会活動の活発化のためである。「天気」の広告料をとり、「気象集誌」の投稿料を値上げするなど、できる限りの処置を講じてきたがこの結果となった。また、事務局体制も現在限界にきている。

以上のような状況であるため、学会費の値上げを考えざるを得ない情勢にある」と報告された。

議長から、以上の説明に対して、質問、意見が求められた。質問等がないため、賛成、反対、白紙の順に挙手が求められた結果、昭和58年度事業計画案及び予算案について、賛成158、反対0、白紙0で、承認可決された旨告げられた。

議長から、さらにもって予定議題の審議を終了した旨告げられた。

13. 緊急提案の議題について

議長から、さき程のA会員からの質問に対し、理事からの答弁が求められた。

荒井理事から、5月11日付で、増田・猿橋両日本学術会議会員の連名による日本学術会議の改革の問題に関するメッセージが、岸保理事長あてに提出された。5月13日に全国理事に速達郵送し、大部分の理事の手許に届いた。昨日の全国理事会に、総会の議題とすることについて提案したが、承認が得られなかったと説明された。

A会員から、全国理事会の審議の結論を説明して欲しいとの発言があった。

岸保理事から、この問題で1時間以上の討論をした。会員の中に関心をもっている人が多いことは認識しているが、理事会として、この大会で決断することには準備不足であり、手続的に内容の点まで審議するに至らなかった旨説明された。

A会員から、この総会で、このメッセージを慎重審議してもらいたいとの緊急提案がなされた。

議長から、この緊急提案を採択するかどうか討論されたいと告げられ、発言が求められた。

各出席会員から、反対、賛成の意見等が活発に発言された。

議長から、定款第40条の規定により、委任状及び書面によらない出席通常会員の過半数の同意をもって、この提案を議事とすることができるので、討論を打ち切り、採決をすると告げられ、賛成、反対、白紙の順に挙手が求められた結果、この緊急提案を議題としてとりあげることに付いて、賛成、90、反対43、白紙29である。

出帯者数 162 であり、総会成立は 147 である。ただいまの採択の結果では、賛成が過半数を超えているので、議題として採決されたことが告げられた。

さらに、議事の整理のため、5分間の休憩が告げられた。

議長から、ただいまから、緊急提案を議題として審議する旨告げられ、発言が求められた。

(17時30分再会)

荒井理事から、5月11日付の理事長あてのメッセージが朗読された。

各出席会員から、反対、賛成の意見、中立的な意見が活発に発言された。

議長から、総会予定時が大幅に延び、次の記念講演に影響するとして、質疑討論を打ち切り、採決をすることが告げられ、賛成、反対、白紙の順に、挙手が求められた結果、「学会会議の改革に関する審議は慎重にして欲しい」というこのメッセージの趣旨をくみとった内容の要望書を総会の名で提出することについて、賛成 125、反対 17、白紙 18 名であり、出席者数は 160 である。

議決には、定款第40条の規定により、委任状及び書面によらない出席通常会員の5分の4以上が必要である。

本案は、160の5分の4が128であることから、否決された旨告げられた。

14. 閉会

岸保理事から、ただいまの議案については否決されたが、理事会としては、多数の意見があったので、この重みを受けとめて対処していく旨と長時間にわたる審議に対する感謝のことが述べられた閉会のあいさつがあった。

議長から、これをもって、議長の務めを解かせていただき、会員のご協力で議事が円滑に終了したことのお礼のことがあった。

以上で、昭和58年度日本気象学総会が18時に終了した。

収 支 計 算 書

(昭和57年4月1日より昭和58年3月31日まで)

収 入 の 部

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
大科目	中 科 目	小 科 目	(円)	(円)	(円)	
会費収入			28,751,700	31,030,130	2,278,430	
	通 常 会 員 入 会 費 収 入	個 人 会 員 入 会 費 収 入	20,612,300	22,130,693	1,518,393	
	団 体 会 員 入 会 費 収 入	団 体 会 員 入 会 費 収 入	4,356,000	4,594,120	238,120	
	外 国 人 会 員 入 会 費 収 入	外 国 個 人 会 員 入 会 費 収 入	564,800	734,402	169,602	
		外 国 団 体 会 員 入 会 費 収 入	468,600	732,115	263,515	
	賛 助 会 員 入 会 費 収 入	賛 助 会 員 入 会 費 収 入	2,750,000	2,838,800	88,800	
事業収入			13,334,700	14,177,288	842,588	
	気 象 研 究 ノ ー ト 収 入	気 象 研 究 ノ ー ト 収 入	8,334,700	9,846,779	1,512,079	
	予 稿 集 収 入	予 稿 集 収 入	2,100,000	1,933,403	△ 166,597	
	そ の 他 収 入	そ の 他 収 入	2,900,000	2,397,106	△ 502,894	初任者研修 papers 書店扱
補 助 金 入 収			2,560,000	3,350,000	790,000	
	文 部 省 補 助 金 入 収	科 学 研 究 費 入 収	2,560,000	3,350,000	790,000	
雑 収 入			7,900,000	10,698,924	2,798,924	
	雑 収 入	雑 収 入	7,900,000	10,698,924	2,798,924	受取利息, 別刷, 投稿料, 広告料, 他
基本財産 収 入			1,000,000	1,092,155	92,155	
	基 本 財 産 収 入	預 金 収 入	1,000,000	1,092,155	92,155	
積立預金 取崩収入			6,150,000	6,150,000	0	
	記 念 事 業 積 立 預 金 取 崩 収 入	記 念 事 業 積 立 預 金 取 崩 収 入	6,150,000	6,150,000	0	
収 入 計			59,696,400	66,498,497	6,802,097	

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目	(円)	(円)	(円)	
前 期 繰 越 金			19,707,680	19,707,680	0	
	前 受 金	前 納 会 費	16,494,000	16,494,000	0	
	前 期 繰 越 額	前 期 繰 越 額	3,213,680	3,213,680	0	
合 計			79,404,080	86,206,177	6,802,097	

支 出 の 部

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目	(円)	(円)	(円)	
管 理 費			12,817,600	15,128,599	2,310,999	
	給 料 手 当	給 料 手 当	4,910,600	5,058,744	148,144	
	退 職 金	退 職 金	0	0	0	
	退職給与引当金 繰 入 額	退職給与引当金 繰 入 額	100,000	100,000	0	
	福 利 厚 生 費	福 利 厚 生 費	370,000	356,046	△ 13,954	
	会 議 費	会 議 費	570,000	511,754	△ 58,246	
	旅 費 交 通 費	旅 費 交 通 費	507,000	387,500	119,500	
	通 信 運 搬 費	通 信 運 搬 費	1,300,000	1,842,885	542,885	
	什 器 備 品 費	什 器 備 品 費	150,000	244,348	94,348	
	消 耗 品 費	消 耗 品 費	100,000	180,424	80,424	
	印 刷 製 本 費	印 刷 製 本 費	590,000	1,020,540	430,540	
	光 熱 水 料	光 熱 水 料	100,000	160,347	60,347	
	賃 借 料	建 物 使 用 料	400,000	419,934	19,934	
	諸 謝 金	諸 謝 金	300,000	199,998	△ 100,002	
	租 税 公 課	租 税 公 課	400,000	474,130	74,130	
	雑 費	雑 費	970,000	2,135,949	1,165,949	
	支 部 交 付 金	支 部 交 付 金	2,050,000	2,036,000	△ 14,000	

勘 定 科 目			予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目	(円)	(円)	(円)	
事業費			48,219,300	52,556,028	4,336,728	
	図書購入費	図書購入費	300,000	446,325	146,325	
	臨時雇賃金	臨時雇賃金	588,000	180,500	△ 407,500	
	会議費	会議費	2,351,000	2,632,770	281,770	
	旅費交通費	旅費交通費	785,000	588,700	△ 196,300	
	通信運搬費	通信運搬費	5,024,000	3,829,811	△1,194,189	
	編集費	編集費	3,878,000	2,379,780	△1,498,220	
	印刷製本費	印刷製本費	33,532,300	40,899,095	7,366,795	
	負担金	負担金	31,000	26,000	△ 5,000	
	雑費	雑費	1,220,000	963,047	△ 256,953	
	学会賞支出	学会賞支出	100,000	200,000	100,000	
	藤原賞支出	藤原賞支出	100,000	100,000	0	
	山本賞支出	山本賞支出	100,000	100,000	0	
	奨励金支出	奨励金支出	210,000	210,000	0	
基本財産 繰入			0	0	0	
	基本財産繰入	基本財産繰入	0	0	0	
予備費			480,000	300,000	△ 180,000	
	予備費	予備費	480,000	300,000	△ 180,000	
支 出 計			61,516,900	67,984,627	6,467,727	
次期 繰越金			17,887,180	18,221,650	334,470	
	前受金	前納会費	16,234,275	16,234,275	0	
	次期繰 支差越額	次期繰 支差越額	1,652,905	1,987,375	334,470	
合 計			79,404,080	86,206,177	6,802,097	

100周年記念事業収支計算書

区 分	予 算 額	決 算 額	差 異	摘 要
管 理 費	200,000 ^円	111,110 ^円	△ 88,890 ^円	
諸 謝 金	200,000	111,110	△ 88,890	
講 師 謝 金	200,000	111,110	△ 88,890	記念講演
事 業 費	10,040,000	16,780,477	6,740,477	
会 議 費	980,000	1,200,790	220,790	
記念式典補助	200,000	420,790	220,790	
大 会 費	480,000	480,000	0	熱帯気象関係
事 務 費	100,000	100,000	0	〃
予 備 費	200,000	200,000	0	〃
旅 費 交 通 費	570,000	418,700	△ 151,300	記念講演 368,700 熱帯気象関係 50,000
通 信 運 搬 費	100,000	100,000	0	会議準備及び通信費
印 刷 製 本 費	7,470,000	14,352,485	6,882,485	
天 気	3,120,000	7,092,485	3,972,485	461頁
気 象 集 誌	4,350,000	7,260,000	2,910,000	60巻1号記念号
雑 費	920,000	708,502	△ 211,498	
記 念 品	100,000	59,110	△ 40,890	学会功勞者
雑 費	100,000	108,837	8,837	式典関係
支 部 交 付 金	400,000	200,000	△ 200,000	記念講演者会場費
事 務 費	200,000	200,000	0	熱帯気象関係
雑 費	50,000	50,000	0	〃
賞 金	50,000	70,555	20,555	学会シンボルマークデザインのため
予 備 費	260,000	260,000	0	熱帯気象関係
計	10,500,000	17,151,587	6,651,587	

財 産 目 録

(昭和58. 3. 31現在)

社団法人 日本気象学会
理事長 岸保勸三郎

資 産 総 額	35,980,512円
1. 基 本 財 産 (基本金, 基金)	14,150,000円
不 動 産	0円
動 産	14,150,000円

種 類	預 入 先	金 額	現 在 高	備 考
貸 付 信 託	住友信託銀行 (新橋支店)	9,650,000	9,650,000	基 本 金
〃	〃	3,000,000	3,000,000	山 本 賞 基 金
〃	〃	500,000	500,000	藤 原 賞 基 金
〃	三井信託銀行 (本 店)	1,000,000	1,000,000	〃
計			14,150,000	

2. 積 立 金	820,000円
----------	----------

種 類	預 入 先	金 額	現 在 高	備 考
金 銭 信 託	住友信託銀行 (新橋支店)	820,000	820,000	退 職 給 与 積 立 金
計		820,000	820,000	

3. 運 用 財 産	18,221,650円
------------	-------------

種 類	預 入 先	金 額	現 在 高	備 考
普 通 預 金	第一勧業銀行大手町支店	4,652,664	4,652,664	
郵便振替貯金	東京中央郵便局貯金課	836,288	836,288	
定 期 預 金	協 和 銀 行 (本 店)	1,000,000	1,000,000	
公社債投資信託	野 村 証 券 (銀座支店)	11,500,000	11,500,000	
現 金	手 許 保 管	232,698	232,698	
計		18,221,650	18,221,650	

4. 什 器 備 品	1,643,600円
5. 期 末 在 庫	1,145,262円

日本気象学会監査報告

1. 監査月日 昭和58年5月2日
 2. 監査場所 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内
 日本気象学会事務局

1. 監査内容

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1) 昭和57年度収支計算書 | 7) 物品出納帳 |
| 2) 収入簿 | 8) 領収証綴 |
| 3) 経費明細帳 | 9) 預金証書及び普通預金通帳 |
| 4) 現金出納簿 | 10) 郵便振替受払通知票綴 |
| 5) 預金出納帳 | 11) 国庫金送金通知書綴 |
| 6) 備品台帳 | 12) 書留簿 |

1. 監査意見

監査の結果、昭和57年4月1日から昭和58年3月31日までの会計年度の収支計算書は正しいものと認める。
 備品台帳をはじめ帳簿類の記帳は正確であり整理もよくなされている。

会費の収入状況は良好であり、その前納率は98%に達している。

事務局業務に関しては事務の能率化をはかっており、財政の安定化に寄与していることは評価される。

また、学会100周年記念事業は、各理事、各委員の努力によって所期の目的を達することができた。ただ印刷費等が予算額を越え、そのため繰越金が多少減少する結果となった。これは記念事業を充実したためであり、やむを得ないものと思われる。

今後も会員数の増大を計るなど、一層の発展を望むものである。

昭和58年5月2日

監事 荒川正一 ㊞
 関根勇八 ㊞

予 算 書

(昭和58年4月1日～昭和59年3月31日)

収 入 の 部

勘 定 科 目			予 算 額	前 年 度 額	増 減	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目	(円)	(円)	(円)	
会費収入			29,069,500	28,751,700	317,800	
	通 常 会 員 会 費 収 入	個 人 会 員 会 費 収 入	20,681,700	20,612,300	69,400	
	団 体 会 員 会 費 収 入	団 体 会 員 会 費 収 入	4,416,000	4,356,000	60,000	
	外 国 人 会 員 会 費 収 入	外 国 人 個 人 会 員 会 費 収 入	679,600	564,800	114,800	
		外 国 人 団 体 会 員 会 費 収 入	572,200	468,600	103,600	
	賛 助 会 員 会 費 収 入	賛 助 会 員 会 費 収 入	2,720,000	2,750,000	△ 30,000	
事業収入			13,151,600	13,334,700	△ 183,100	
	気象研究ノート 収 入	気象研究ノート 収 入	8,511,600	8,334,700	176,900	
	予 稿 集 収 入	予 稿 集 収 入	2,040,000	2,100,000	△ 60,000	
	そ の 他 収 入	そ の 他 収 入	2,600,000	2,900,000	△ 300,000	初任者研修 Papers 書店扱
補助金 収 入			3,350,000	2,560,000	790,000	
	文 部 省 補 助 金 収 入	科 学 研 究 費 収 入	3,350,000	2,560,000	790,000	
雑 収 入			9,100,000	7,900,000	1,200,000	
	雑 収 入	雑 収 入	9,100,000	7,900,000	1,200,000	受取利息, 別刷, 投稿料, 広告料他
基本財産 収 入			1,000,000	1,000,000	0	
	基 本 財 産 収 入	預 金 収 入	1,000,000	1,000,000	0	
積立預金 取崩収入			720,000	6,150,000	△5,430,000	
	記 念 事 業 積 立 預 金 取 崩 収 入	記 念 事 業 積 立 預 金 取 崩 収 入	0	6,150,000	△6,150,000	
	退 職 給 与 引 当 金 積 立 預 金 取 崩 収 入	退 職 給 与 引 当 金 積 立 預 金 取 崩 収 入	720,000	0	720,000	
収 入 計			56,391,100	59,696,400	△3,305,300	

勘 定 科 目			予 算 額	前 年 度 予 算 額	増 減	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目	(円)	(円)	(円)	
前 期 繰 越 金			18,221,650	19,707,680	△1,486,030	
	前 受 金	前 納 会 費	16,234,275	16,494,000	△ 259,725	
	前 期 繰 越 差 額	前 期 繰 越 差 額	1,987,375	3,213,680	△1,226,305	
合 計			74,612,750	79,404,080	△4,791,330	

支 出 の 部

勘 定 科 目			予 算 額	前 年 度 予 算 額	増 減	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目	(円)	(円)	(円)	
管 理 費			13,551,200	12,817,600	733,600	
	給 料 手 当	給 料 手 当	4,988,600	4,910,600	78,000	
	退 職 給 与 引 当 金 繰 上 入 額	退 職 給 与 引 当 金 繰 上 入 額	100,000	100,000	0	
	退 職 金	退 職 金	1,033,600	0	1,033,600	
	福 利 厚 生 費	福 利 厚 生 費	400,000	370,000	30,000	
	会 議 費	会 議 費	400,000	570,000	△ 170,000	
	旅 費 交 通 費	旅 費 交 通 費	286,000	507,000	△ 221,000	
	通 信 運 搬 費	通 信 運 搬 費	1,600,000	1,300,000	300,000	
	什 器 備 品 費	什 器 備 品 費	200,000	150,000	50,000	
	消 耗 品 費	消 耗 品 費	150,000	100,000	50,000	
	印 刷 製 本 費	印 刷 製 本 費	400,000	590,000	△ 190,000	
	光 熱 水 料	光 熱 水 料	157,000	100,000	57,000	
	賃 借 料	建 物 使 用 料	400,000	400,000	0	
	租 税 公 課	租 税 公 課	400,000	400,000	0	
	雑 費	雑 費	850,000	970,000	△ 120,000	
	支 部 交 付 金	支 部 交 付 金	2,086,000	2,050,000	36,000	
	諸 謝 金	諸 謝 金	100,000	300,000	△ 200,000	

勘 定 科 目			予 算 額	前 年 度 額	増 減	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目	(円)	(円)	(円)	
事業費			43,529,300	48,219,300	△4,690,000	
	図書購入費	図書購入費	300,000	300,000	0	
	臨時雇賃金	臨時雇賃金	422,300	588,000	△ 165,700	
	会 議 費	会 議 費	1,100,000	2,351,000	△1,251,000	
	旅費交通費	旅費交通費	105,500	785,000	△ 679,500	
	通信運搬費	通信運搬費	4,158,400	5,024,000	△ 865,600	
	編 集 費	編 集 費	3,793,800	3,878,000	△ 84,200	
	印刷製本費	印刷製本費	32,808,300	33,532,300	△ 724,000	
	負 担 金	負 担 金	31,000	31,000	0	
	雜 費	雜 費	300,000	1,220,000	△ 920,000	
	学会賞支出	学会賞支出	100,000	100,000	0	
	藤原賞支出	藤原賞支出	100,000	100,000	0	
	山本賞支出	山本賞支出	100,000	100,000	0	
	奨励金支出	奨励金支出	210,000	210,000	0	
基本財産 取 入			0	0	0	
	基本財産繰入	基本財産繰入	0	0	0	
予備費			200,000	480,000	△ 280,000	
	予 備 費	予 備 費	200,000	480,000	△ 280,000	
支 出 計			57,280,500	61,516,900	△4,236,400	
次 期 繰 越 金			17,332,250	17,887,180	△ 554,930	
	前 受 金		16,450,125	16,234,275	225,850	
	次 期 繰 越 額	次 期 繰 越 額	882,125	1,652,905	△ 770,780	
合 計			74,612,750	79,404,080	△4,791,330	